



Title	太宰治スタディーズ 第4号 編集後記 奥付
Author(s)	
Citation	太宰治スタディーズ. 2012, 4
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/97717">https://hdl.handle.net/11094/97717</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# 太宰治スタディーズ

太宰治スタディーズ 第4号  
2012年6月19日発行  
「太宰治スタディーズ」の会

発行者：「太宰治スタディーズ」の会  
発行所：斎藤理生  
〒371-8510  
前橋市荒牧町4-2  
群馬大学教育学部 斎藤理生研究室内  
印 刷：(有)大気堂

## 編集後記

■「太宰治スタディーズ」第4号をお届けいたします。いつも通りではあるのですが、特集テーマに即して、構想・準備～発表と討議～原稿作成と相互批評～論文執筆といった濃密なプロセスをへて、過去最大12本の論文および小特集原稿が集まりました。文責はもとより個々の著者にあるもので、また、評価は読者に委ねられるのですが、それでも本号は、「太宰治スタディーズ」の会ならではの充実した時間が凝縮された誌面になっているのではないかと思います。

■〈1939年〉というテーマは、文学史上において、あるいはマイナー、狭隘に映るかもしれません、メンバーにとっては何かしら響くものがありました。これは、小誌前号の発送作業の際に、自然とわきでてきたアイディアなのです。作家・作品ばかりでなく、1939年（前後）に興味をもつ人々にも、ひろく手にとって頂ければ幸いです。

■「イントロダクション」でもふれられていたように、「女生徒」を中心的な検討対象とした論考がない反面（？）、選ばれた作品（群）やテーマは、メンバーが〈1939年〉に対して、今日の視座・問題関心からアプローチすることによって浮かびあがってきた、ある特徴的な紋様のようにも感じられます。

■前号に引き続き、メンバー外の執筆者に書評をご寄稿頂きました。この場をかりて御礼申し上げます。

■印刷・製本では、前号に続き(有)大気堂さまにお世話になりました。

■細々と、「『太宰治スタディーズ』blog」  
[<http://d.hatena.ne.jp/dstudies/>] も  
継続しています。ご参照下さい。